

令和7年度 第1回江戸川区公共施設整備検討委員会

1 日 時 令和7年12月9日（火） 午前10時～12時

2 会 場 江戸川区役所第三庁舎別館 会議室

3 出席者 【委 員】 白木委員長、湯淺副委員長、山内委員、高原委員、町山委員、眞分委員
【委員以外】 堀井喜良氏（内閣府 PPP/PFI 行政実務専門家）（オンライン参加）
【事 務 局】 新庁舎・施設整備部計画課

4 会議概要

- 議事に先立ち委員長の互選を行った結果、白木委員が委員長に選出された。また、白木委員長より湯浅委員を副委員長に指名した。
- 官民連携事業に関する講義を実施するため、内閣府 PPP/PFI 行政実務専門家の堀井氏を委員会にオンラインで出席してもらい、講義及び質疑応答を行った。
- 以下の内容について、事務局から説明し、意見交換を行った。
 - ・本区の民間提案制度について
 - ・民間提案における評価の視点（採点基準）について
 - ・インセンティブ付与の方向性について

5 議事要旨

【主な意見】

《評価の視点について》

- ・区の抱える課題、及び課題に対するアプローチを評価する視点があった方が良い。
- ・この項目をクリアできないと提案の採用は認めないという、必須項目が必要ではないか。
- ・安定的な経営、及び事業実施体制の安定確保の視点は、財務指標から評価を行うべき。
- ・類似事業等の実績の評価はしたほうが良いと思うが、参入障壁となり難しい面も出てくる。
- ・区財政の負担軽減の配点割合が大きいため、評価の視点をもう少し細分化したほうが良い。

《配点の考え方について》

- ・事業に対する理解度や姿勢、考え方など、その配点に重点を置いた方が良い。
- ・区民サービスの向上は重要な評価視点であり、妥当な配点と思うが、区財政の負担軽減の配点は大きすぎると感じる。
- ・人口減少という大きな流れからすると、区財政の負担軽減に対する評価点の割合を大きくすることは理解できる。問題はどうやって適切に評価するか。
- ・今回の議論を踏まえ、評価の視点や配点については事務局で修正していただきたい。